

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-182535

(43) 公開日 平成 8 年 (1996) 7 月 16 日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

序内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 5 D 44/02

Z

審査請求 未請求 請求項の数 6 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-339960

(22) 出願日 平成 6 年 (1994) 12 月 29 日

(71) 出願人 000108672

タカラベルモント株式会社
大阪府大阪市中央区東心斎橋 2 丁目 1 番 1 号

(72) 発明者 川口 真澄

大阪府大阪市中央区東心斎橋 2 丁目 1 番 1 号
タカラベルモント株式会社内

(72) 発明者 宮本 憲次

大阪府大阪市中央区東心斎橋 2 丁目 1 番 1 号
タカラベルモント株式会社内

(72) 発明者 角矢 有司

大阪府大阪市中央区東心斎橋 2 丁目 1 番 1 号
タカラベルモント株式会社内

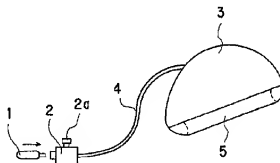
(74) 代理人 弁理士 橋 哲男

(54) 【発明の名称】 頭髪、頭皮処理装置

(57) 【要約】

【目的】 頭髪を濡らした状態で、フードを被り炭酸ガスをフード内に供給することにより、頭皮の血行を促進し、かつ、毛髪および頭皮を弱酸性に保って、頭髪および頭皮を健康に保つと共に、脱毛の防止と育毛の促進を図ったものである。

【構成】 頭部に被るフード 3 と、該フードの所望位置にパイプを介してあるいは直接取付けられた炭酸ガス発生手段 1, 6, 7 とを具備した頭髪、頭皮処理装置である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 頭部に被るフードと、該フードの所望位置にパイプを介してあるいは直接取付けられた炭酸ガス発生手段とを具備したことを特徴とする頭髪、頭皮処理装置。

【請求項2】 前記炭酸ガス発生手段が、炭酸ガスボンベが着脱自在に取付けられるレギュレーターと、該レギュレーター的气体流出量を調整する調節弁とから構成されていることを特徴とする請求項1記載の頭髪、頭皮処理装置。

【請求項3】 前記炭酸ガス発生手段が、炭酸ガス発生薬剤を水に溶解することにより炭酸ガスを発生する手段と、該手段に取付けられるレギュレーターと、該レギュレーター的气体流出量を調整する調節弁とから構成されていることを特徴とする請求項1記載の頭髪、頭皮処理装置。

【請求項4】 前記炭酸ガス発生手段より供給される炭酸ガスの所定流量を検出し、あるいは炭酸ガスが所定時間供給されると、該炭酸ガス発生手段よりの炭酸ガスの供給を停止させるようにしたことを特徴とする請求項1記載の頭髪、頭皮処理装置。

【請求項5】 前記炭酸ガス発生手段よりの炭酸ガスが前記フードに供給され、所定の炭酸ガス温度になったことを検出すると、該炭酸ガス発生手段よりの炭酸ガスの供給を停止させるようにしたことを特徴とする請求項1記載の頭髪、頭皮処理装置。

【請求項6】 前記フードの開口部に頭部を挿入した状態において、該フードの開口部と頭部との間に生じる空間を無くす封止手段を、前記フードの開口部に形成したことを特徴とする請求項1記載の頭髪、頭皮処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、理美容院等において頭部に被るフード内に炭酸ガスを供給して、頭髪および頭皮を健康やかに保ち、かつ、脱毛を防止し育毛を促進するための頭髪、頭皮促進装置に関する。

【0002】

【従来の技術】炭酸ガスを発生させる薬剤を湯に投入することにより、血行を促進させるための入浴剤が、また、炭酸ガス注入了ポンベを備えた炭酸ガス発生機構を通して炭酸ガスを水に溶解させ、入浴に用いることで血行を促進させるものも既存している。そして、何れのものも温度を必要以上に上げることなく体を温めることができ、また、炭酸ガスを水に溶解すると、その水は弱酸性を示すことは周知のことである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、頭皮の血行を促進することで老廃物の代謝が促進され脱毛を防ぐことができ、また、頭髪、頭皮を弱酸性に保つことで細菌の過剰繁殖を防いで健康に保つことができるものであ

る。

【0004】本発明は図上の点に着目してなされたもので、その目的とするところは、頭髪を潤らした状態で、フードを被り炭酸ガスをフード内に供給することにより、頭皮の血行を促進し、かつ、毛髪および頭皮を弱酸性に保って、頭髪および頭皮を健康やかに保つと共に、脱毛の防止と育毛の促進を図った頭髪、頭皮促進装置を提供せんとするにある。

【0005】

- 10 【課題を解決するための手段】本発明の頭髪、頭皮促進装置は前記した目的を達成せんとするもので、その手段は、頭部に被るフードと、該フードの所望位置にパイプを介してあるいは直接取付けられた炭酸ガス発生手段とを具備したものである。

【0006】また、前記炭酸ガス発生手段が、炭酸ガスボンベが着脱自在に取付けられるレギュレーターと、該レギュレーター的气体流出量を調整する調節弁とから構成してもよく、さらに、前記炭酸ガス発生手段が、炭酸ガス発生薬剤を水に溶解することにより炭酸ガスを発生する手段と、該手段に取付けられレギュレーターと、該レギュレーター的气体流出量を調整する調節弁とから構成してもよい。

【0007】また、前記炭酸ガス発生手段より供給される炭酸ガスの所定流量を検出し、あるいは炭酸ガスが所定時間供給されると、該炭酸ガス発生手段よりの炭酸ガスの供給を停止させ、あるいは前記炭酸ガス発生手段よりの炭酸ガスが前記フードに供給され、所定の炭酸ガス温度になったことを検出すると、該炭酸ガス発生手段よりの炭酸ガスの供給を停止させるようにすることが望ましい。

30 【0008】さらに、前記フードの開口部に頭部を挿入した状態において、該フードの開口部と頭部との間に生じる空間を無くす封止手段を、前記フードの開口部に形成することが望ましい。

【0009】

【作用】本発明の頭髪、頭皮促進装置は、フードを被った状態で炭酸ガス発生手段より炭酸ガスをフード内に供給すると、フード内に炭酸ガス雰囲気となるので、頭髪が潤われている炭酸ガスが水に溶解して、頭皮の血行を促進すると共に弱酸性に保つことができる。

40 【0010】また、炭酸ガス発生手段は、炭酸ガスボンベあるいは水に溶解すると炭酸ガスを発生する炭酸ガス発生薬剤を使用し、この発生源からの炭酸ガスをレギュレーターを介してフード内に供給すると、所定量の炭酸ガスの供給が行なえる。

50 【0011】しかも、炭酸ガスの流量が所定量あるいは所定時間経過すると自動的にレギュレーターの供給を停止させ、さらに、フード内の炭酸ガス濃度を検出してレギュレーターの供給を停止させることにより、フード内を最適な炭酸ガス雰囲気とすることができる。

【0012】

【実施例】以下、本発明に係る頭髮、頭皮処理装置の実施例を図面と共に説明する。図1は炭酸ガス発生手段を炭酸ガスボンベ1を使用した場合の実施例であり、炭酸ガスボンベ1はレギュレーター2に対して着脱自在に取付けられるようになっている。このレギュレーター2には内部を通過する炭酸ガスの流量を調整するための調整摘2aが設けられている。

【0013】3は頭髮部分の全体を覆うことができるフードにして、頂部近くにパイプ4の一端が接続されている。このパイプ4の他端は前記レギュレーター2の出口側に接続されている。また、フード3の開口部3aの内周面にはスポンジを合成樹脂膜で覆った、あるいは空気を注入することで膨らみ、フード2を被った人の頭部とフード2の開口部との間に空間ができないようにする封止手段5が形成されている。

【0014】また、図2は前記炭酸ガス発生手段が炭酸ガスボンベ1であるのに対して、本実施例は、所望量の水が充填され密閉可能な容器6と、水に溶解することにより炭酸ガスを発生する炭酸ガス発生薬剤7とより構成したものである。そして、この実施例においては、容器6内に水と共に炭酸ガス発生薬剤7を封入し、これにより発生する炭酸ガスをレギュレーター2に供給するようにしたものである。

【0015】このように構成した本発明の頭髮、頭皮処理装置においては、頭髮を濡らした状態でフード3内に頭部を挿入し、封止手段5によってフード3の開口部と頭部との間に隙間が発生しないようにする。そして、炭酸ガスボンベ1より得られる、あるいは炭酸ガス発生薬剤7を容器6内において水に溶解して得られる炭酸ガスを、調整摘2aを操作してレギュレーター2よりパイプ4を介してフード3内に供給する。

【0016】フード3内の炭酸ガス濃度が所定値に達した状態で、調整摘2aを操作して炭酸ガスの供給を停止して、フード3内に一定の炭酸ガス雰囲気と保つ。このように、フード3内が炭酸ガス雰囲気になると、頭皮の血行が促進されると共に濡れた頭髮および頭皮は弱酸性となって、細菌の過剰繁殖が抑制される。その結果、頭髮および頭皮を健やかに保ち、かつ、脱毛を抑制できると共に育毛の促進を図ることができるものである。

【0017】図3、図4は他の実施例を示し、前記した実施例のレギュレーター2とフード3とがパイプ4を介して接続されていたのに対して、本実施例は直接レギュレーター2をフード3に取付けたものであり、前記した実施例と同じ作用が得られるものである。なお、図1、図2と同一符号は同一部材を示している。

【0018】なお、前記した実施例においては、炭酸ガス発生手段からの炭酸ガスの供給量を調整摘2aを操作することによって行なうものを示したが、ガス流量を検

出する流量センサーが所定流量を検出した出力で前記レギュレーター2の弁を閉めたり、あるいは、炭酸ガスの供給開始から所定時間の後に、レギュレーター2の弁を閉めて、一定量の炭酸ガスをフード3内に供給するようにしてもよい。

【0019】また、フード3内にガス濃度を検出する濃度センサーを設置し、この濃度センサーが所定の炭酸ガス濃度を検出した時に、前記レギュレーター2の弁を閉めてフード3内の濃度が一定になるようにしてもよい。

【0020】

【発明の効果】本発明は前記したように、フードを被った状態で炭酸ガス発生手段よりの炭酸ガスを介してフード内に供給して、フード内を炭酸ガス雰囲気としたので、頭皮の血行を促進することができ、また、濡れている頭髮によって炭酸ガスが水に溶解して弱酸性に保つので、細菌の過剰繁殖を抑制でき、従って、頭髮および頭皮を健やかに保ち、かつ、脱毛を防止できると共に育毛の促進を図ることができるものである。

【0021】また、炭酸ガス発生手段は、炭酸ガスボンベあるいは水に溶解すると炭酸ガスを発生する炭酸ガス発生薬剤を使用し、この発生源からの炭酸ガスをレギュレーターを介してフード内に供給するので、炭酸ガス発生源としての選択度が広がるものである。

【0022】さらに、炭酸ガスの流量が所定量あるいは所定時間経過すると自動的にレギュレーターの供給を停止させ、さらに、フード内の炭酸ガス濃度を検出してレギュレーターの供給を停止させることにより、フード内を最適な炭酸ガス雰囲気とすることができる。

【0023】また、フードの開口部に封止手段を設けたので、フードを被った人の頭部とフードとの間に隙間が生じることがなく、従って、炭酸ガスの漏れを防止でき炭酸ガスの無駄を防止できると共に、フードを被っている人が炭酸ガスを直接吸い込むこともなく不快感を与えることがない等の効果を有するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る頭髮、頭皮促進装置の第1実施例を示す側面図である。

【図2】第2実施例の側面図である。

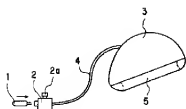
【図3】図1の他の実施例の側面図である。

【図4】図2の他の実施例の側面図である。

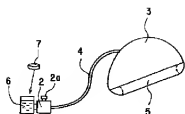
【符号の説明】

- 1 炭酸ガスボンベ
- 2 レギュレーター
- 2a 調整摘
- 3 フード
- 4 パイプ
- 5 封止手段
- 6 容器
- 7 炭酸ガス発生薬剤

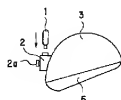
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

